岸柳四鬼談

きしのあやぎくまのあがらう

初編前

豐國筆

13
2378
267

特
へ13
2378
266

巖窟蕾玄
皆本武者志

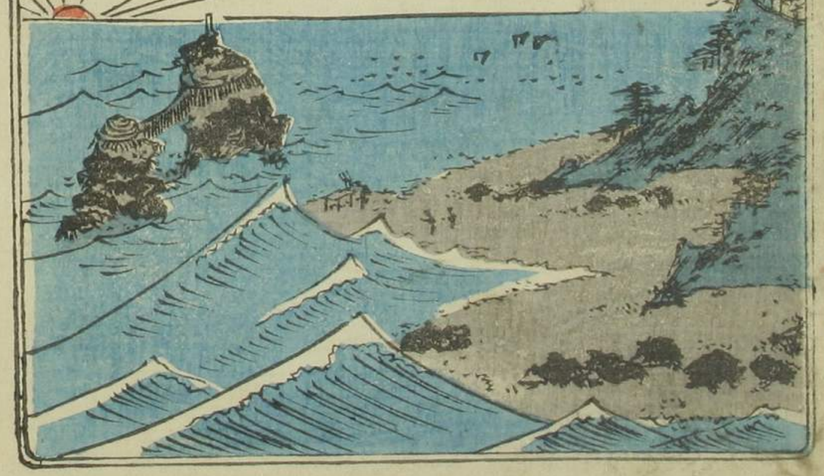
岸柳四魔談

樂亭西馬作
一雄齋國輝画

初編上之巻

嘉永三庚戌春新鐫

馬喰二
錦耕堂版



早陽后卯詣より。臥龍梅の園を巡りて帰路両國橋上に立てるは。前後は冨筑二山の風色を眺め。賑へる街を賤許は戻りて扨上は向ひ扨一日の遊観を考るに。是皆稗史の稿と成りぬ。その先卧竜先生を思ひ出て鬼一法眼を巻首と講釈場の三刀傳又武者修行の筋をまく。席亭浄瑠璃の嶋物語に蕾玄の名を壊夜つ怪談咄寫繪の招牌を視て。四魔談の摽題をまうくさ豆ゞ力持の懺居合技の掛声は。剛勇武術の達人を交へ後の狂言則敵役は肉縁を引く。丹波國より生捕て親代々猟師の其言弘も一固の次道橋詰の責下者ゆさもの翁の士吾凶判断正道絶ふ放一亀も海度の陰德水垢離。願以至苦得千枚地藏何條験者の法力法便風靡ゆるまる玉の。柳嶋くゝ岸通り。幾筋もちくゝは筆拙く採どり。足利の時代に綴らゞ趣向世東廣小路の見さ景物を表立て。初編の大意とあらぬ。

嘉永三庚戌孟春殷市新刻

樂亭西馬戯述

前よりうつと見れば
黛ち考人うるか
梅翁
鞜遯が後仙
吉岡鬼一
法眼が末裔
鞜遯の異仙
紀乃那智山禁
郎士皆本武右衛門
武五郎正好
姫子
鞜遯が後仙

千柳亭
近江の国
佐崎判官政賢
愛妾中見方
蕃玄が邪法の怪異
佐崎家の奥方
盤井御前

蕾玄
修験者
宴の
赤松
満祐
落
信
侍望
少
杉原
宗因
蕾玄ゲ法属古絡
皆本武者志
幼名
武五郎
東大鰐の骨

佐藤
の
雅君
若葉丸
牛
曲
佐藤の臣
佐藤の
永
舞
老女
荊棘
梅畑木目之進
友道
沖見の方の婢
四心
苔茉莉

佐崎刑部大夫
長子
歌鳥九
沖見
男浪
母
郡司下役人花外與太九郎後ふ
花木庭九郎
神崎の
歌妓撰吉
摂津國生玉の町人艶油屋
濡次郎

佐崎刑部大夫
枹臣
赤松
蕃作
音高
佐崎刑部大夫
貴教
伊豫の国
黒瀬
頼一給
同伴大膳
英武藏
弘
同伴
古池
藻中三
清與郎

武

「さのふとけつ
ちづくゆりざ

「ちとさ

蕃

牛

緑亭川柳作

遊仙杏春雨草紙

八編 丸編

一陽斎豊國画

緑亭川柳作

田舎織糸線狭衣

初編 二編 三編

一陽斎豊国画

緑亭川柳輯

義列百人一首

袋入 一冊

諸名画集筆

畸人百首

川柳輯

近刻

錦耕堂 山口屋藤兵衛版
江戸馬喰町二丁目

一雄齋国輝画

繁昌西国巡

浮世絵師
巖国菅玄
佐崎岸林
牛窪曲腸
花木定九郎
曽本武者志

嘉永三
庚戌
羊
孟陽
鼓市

拳覽

初編
後集

馬喰町二
山口屋藤兵衛梓行

岩撫太平魔語

西馬作
國輝画

初編下の巻

庚戌春新彫
山口屋板

四鹿詞
武
撰
濡
左上

花
右下

花

武

梅

武

辰
巳

牛

梅
沖

樂亭西馬作

一雄齋國輝画

俳書 金丈

江戸鹿子紫草紙 初編 文亭梅彦作 追々出版 一陽齋豊國画

坂東太郎後世譚 初編 樂亭西馬作 六編マテ 玉蘭齋貞秀画

岸柳四魔物語 初編 樂亭西馬作 二編 一雄齋國輝画

昔語太夫の礎 全冊 長嶋一魁車作 錦朝楼芳虎画

つるく州玉の石 初編 山東庵京山作 四編マテ 一勇齋國芳画

新編柳樽 三十編マテ 追々出巻 書物錦繪閲兵 馬喰町二丁目 山口屋藤兵衛板